

ナシ病害虫の発生状況（10月下旬）

（1）ナシ黒星病

翌年の越冬伝染源となるナシ黒星病の秋型病斑の発生ほ場割合は、いずれの地域も例年並でした（図1）。本年、もう1つの越冬伝染源である果そう基部病斑の発生が少なかったものの、ナシ生育初期に本病の発生が問題となる事例がありました。これは、前年のり病落葉（秋型病斑）から飛散する子のう胞子による感染が原因と考えられます。

そのため、ほ場における秋型病斑の発生状況に留意し、落葉処理を実施しましょう。

落葉処理は、季節風の吹く方向に対して直角の方向に、幅及び深さ 30～40cm 程度の溝を掘ると自然に落葉が集まるので、翌年の発芽前までに埋め戻す方法や、乗用草刈機やフレールモアを用いた落葉の粉碎処理を行う方法があります。粉碎処理に当たっては、原形をとどめた落葉が残らないよう丁寧に実施してください。

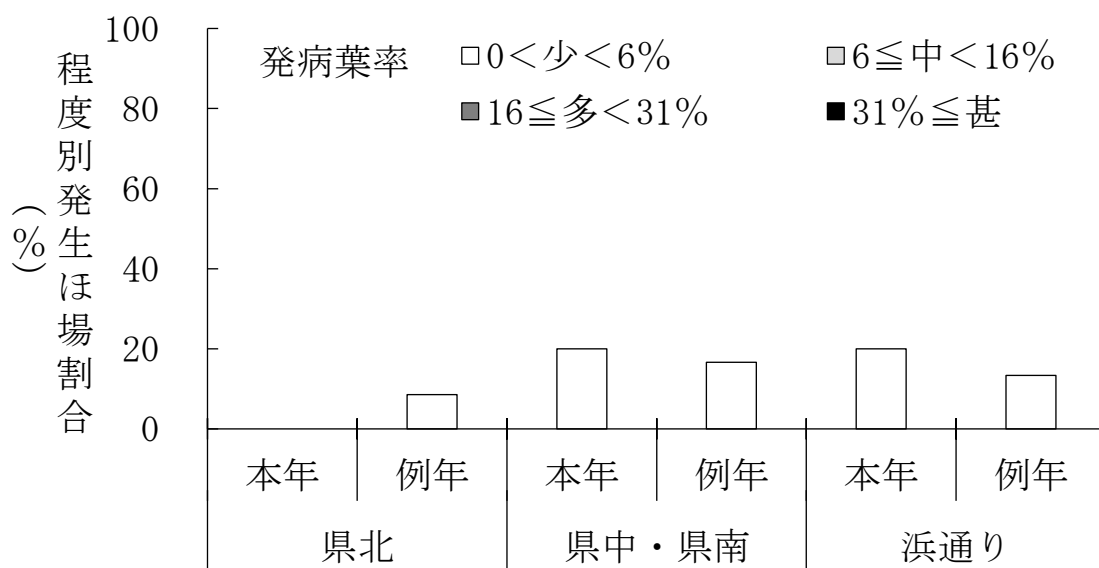


図1 ナシ黒星病の秋型病斑の新梢葉での発生状況（10月下旬、幸水）
※例年は県北が直近4年間、県中・県南及び浜通りが直近3年間の平均



図2 ナシ黒星病の秋型病斑



※落葉処理方法の動画はこちら